

2024.9

STウォール Ø

ゼロ

標準施工仕様書

〈乾式 耐火間仕切壁〉

1 時間耐火構造認定番号 : FP060NP-0427-1 (1) GW なし

FP060NP-0427-1 (2) GW あり



チヨダウーテ株式会社

仕様一覧表

水平断面図	
	<p>①目地処理なし</p> <p>②目地処理あり</p>
上張り材	強化せっこうボード 21mm (タイプV耐水BKも可)
下張り材	強化せっこうボード 21mm (タイプV耐水BKも可)
ランナー	□ -65×40×0.4mm 以上
スタッド	□ -65×45×0.4mm 以上 @606mm 以下 □ -65×45×0.4mm 以上
スタッドスパー	約 600 mm 間隔 (□ の場合)
振れ止め	□ -19×10×0.9mm 以上 (必要に応じて挿入)
吸音材	必要に応じて挿入
目地処理	なし 又は ガラス繊維テープ+ジョイントコンパウンド
四周処理	上下部、端部：FRフェルト+スキマナイト又はシーリング材 又は全壁端部：チヨダ耐火シール (下張り材、上張り材共)
その他	<p>【①目地処理なしの場合】</p> <p>上張り目地部木口面：チヨダボード用接着剤 (酢ビ系) 塗付 たて目地：25g/m よこ目地：10g/m</p>

※下部で不陸が少ない場合、下張り材にFRフェルトの代わりにスキマナイト又はシーリング材も可
チヨダ耐火シールの施工方法は別途「チヨダ耐火シールの標準施工方法」参照

留付材早見表

	留め具種類	寸法・数量	間隔
下張り材	タッピンねじ	φ3.5×32mm 以上	202mm 以下
上張り材	チヨダボード用接着剤 (酢ビ系)	100~200 g/m ²	均等に点付け
	ステーブル	4×32mm 以上	周辺部 100mm、中間部 200mm 以下

■上張り材と下張り材の間に補強用鋼板が挿入されている場合の鋼板部上張り材留め具

留め具種類	寸法・数量	間隔
タッピンねじ	φ3.5×32mm	周辺部 100mm 以下 中間部 200mm 以下

※、鋼板の厚さにより、ステーブルが打ち込める場合は、ステーブルでも可

目次

1. 目的	P4
2. 総則	P5
3. 留意事項	P5
4. ボードの荷姿・運搬・保管	P6
5. 材料構成	P7～8
6. 標準施工要領	P9～10
7. 補強用鋼板の施工	P11
8. 施工順位	P12～13
9. 標準詳細図	P14～18
10. 自主検査	P19

1. 目的 安全で確実に施工していただく為に

乾式耐火遮音壁を施工する場合は、「平成 17 年総務省令第 40 号」に基づいた消防予 188 号通知、その運用・細目を定めた消防予第 500 号通知内容を遵守する義務があります。その 500 号通知には施工条件として、「施工管理体制が整備されている場合に限る」と明記されております。

「施工管理体制が整備されている場合に限る」とは、

① 乾式壁の施工方法

メーカーが作成した施工仕様書等により明確とされていること。

② 施工現場における指導・監督等

メーカーが実施する技術研修を修了した者が選任されていること。

③ 施工状況の確認等

自主検査による確認が行われ、かつその結果が保存されていること。

④ その他

ア. 施工管理体制の整備状況については、当該共同住宅等の施工全般に係わる責任者の作成する施工管理規定等により確認すること。

イ. 乾式の壁と床、梁等の躯体との接合部の耐火処理については、特に徹底した施工管理を行うこと。

の要件が整っていることです。

①につきましては「標準施工仕様書」に当たります。

②につきましては、「耐火・遮音システムの施工管理」を徹底するため、チヨダ耐火・遮音間仕切システム技術研修会を開催し、研修修了者には修了証（ライセンス）を授与する制度を確立しております。

③につきましてはP15の自主検査記録書を使用して下さい。

④のイにつきましてはこの「標準施工仕様書」に基づき確実な隙間処理を行って下さい。

上記は、施工現場で乾式戸境壁の性能を確保するために施工管理体制を整備することを目的としております。この考え方は戸境壁以外の遮音耐火壁を施工する際にも、必要であることから、この「標準施工仕様書」の内容に従い確実に施工することとします。

* 注意事項

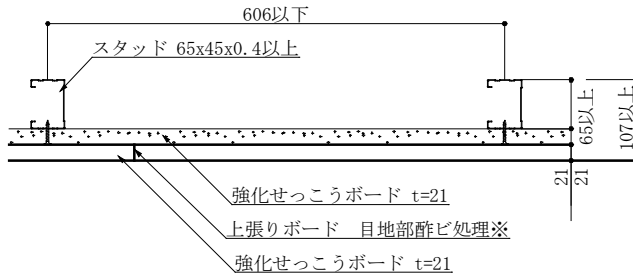
この「標準施工仕様書」は、必ず施工前に注意深く読み、よくご理解ください。

この「標準施工仕様書」は、この施工全般にわたって、いつでも確認できるように保管しておいて下さい。

2. 総則

2-1 適用範囲

この標準施工仕様書は、STウォールØについて適用する。



※ 上張り目地を目地処理する場合は不要

2-2 周知徹底

STウォールØの施工に際しては、この標準施工仕様書に基づいて事前説明会、その他の方法で作業員全員に周知徹底をはかる。

2-3 施工

施工業者は、この標準施工仕様書に従い、正確に施工しなければならない。この標準施工仕様書に明記されていない事項又は、疑問の点がある場合は、あらかじめ施工業者は、チヨダウーテ(株)の担当者と協議する。

2-4 報告

施工業者は工事が完了した時点で、建設元請業者の監督員に報告し検査を受ける。

3. 留意事項

- 3-1 本仕様書は標準的な施工方法を記述しております。実際の現場で発生する問題がありましたらご相談下さい。
- 3-2 四周処理の隙間処理で使用するスキマナイト・シーリング材の使用量は、隙間の大きさや躯体の不陸の程度により異なります。従って、使用量はその都度隙間を埋めるのにふさわしい量ということになります。
- 3-3 外壁側の壁、スラブ下に施工されている内断熱用現場発泡ウレタン等の樹脂類は、耐火遮音壁との取合部を必ず除去して下さい。
- 3-4 現場の作業は、安全を第一とし、各自が各々自覚した行動をとり、もし危険のある段取や安全管理が徹底出来ない場合は、作業を中止してでも全員一体となって、安全管理を最優先し、最後まで無事故で工事を完成させることを基本として下さい。
- 3-5 別紙「自主検査記録書（兼報告書）」に基づき、チェック・検査報告をする。
- 3-6 立会検査は監視員の指導に基づいて行う。
- 3-7 壁体内に止むを得ずコンセント・スイッチ配線等がある場合、あらかじめ処理方法を所轄消防署等と協議する。又、配線は配管（コンジットパイプ・PF管）内にする。
- 3-8 梁等の取合部で、水平区画部等が出来る場合は、あらかじめ処理方法所轄消防署等と協議する

4. ボードの荷姿・運搬・保管

4-1 荷姿

荷姿はボードによって異なりますが、品種ごとに保管しています。

4-2 搬入

強化せっこうボード等の搬入は事前に検討された搬入計画に基づいて行い、管理担当者に指示を受ける。

4-3 揚重

各階への揚重は、現場設置のリフトで行い現場の揚重基準に従う。

4-4 保管

搬入された強化せっこうボード等は雨水等がかからない場所に置き、反り等が発生しないよう平積みとするとともに以下の点に注意する。

- (1) 荷くずれ、角欠けがないように均等に置く。
- (2) 壁際より、最低1m以上離す。
- (3) 斜面、露出部には置かない。
- (4) 凹凸面や水濡れ部には置かない。

上階から漏水の恐れがある場合は、あらかじめシートなどで養生する。

- (5) 波打ち、反りが出ないように高さのそろった台の上に保管し、ボードの縁が台からはみ出さない。
- また、各山の一番上のボードは裏面を上面にする。
- (6) 2段積みなどを行う場合は、1段目と2段目の台木位置を同じにする。
 - (7) ボードなどを踏み台にしない。

4-5 残材処理、掃除

せっこうボード製品の残材はあらかじめ定められている、指定場所に集積しておく。

5. 構成材料

5-1 主構成材料

5-1-1 上張り材

商品名：強化せっこうボード（タイプV耐水BKを含む）
 規格：JIS A 6901（せっこうボード製品） GB-F
 比重：0.75以上
 厚さ：21mm
 標準寸法：606×1820、2420、2730mm
 端部形状：スクエア、ベベル、テーパー※ ※テーパーボードは受注生産品

5-1-2 下張り材

商品名：強化せっこうボード（タイプV耐水BKを含む）
 規格：JIS A 6901（せっこうボード製品） GB-F
 比重：0.75以上
 厚さ：21mm
 標準寸法：606×1820、2420、2730mm
 端部形状：スクエア、ベベル

5-1-3 鋼製下地材

規格：JIS G3302、G3313、G3314、G3317、G3321、G3323のいずれかに規定するものとする。
 上下ランナー：□-65×40×0.4mmの断面寸法以上
 スタッド：□-65×45×0.4mmの断面寸法以上
 ：□-65×45×0.4mmの断面寸法以上
 振れ止め：□-19×10×0.9mmの断面寸法以上

5-1-4 スタッドスペーサー

規格：下地材と同じ材質とする
 取り付け間隔：約600mm

◆壁高さによるスタッドの選択（JIS材使用時、455間隔の場合）

スタッドの種類	65、75形	90形	100形
壁高さ	4.0m以下	4.5m以下	5.0m以下

5-2-1 ランナー固定ピン

コンクリート躯体の場合

- ① 発射打ち込み鉄 寸法 : $\phi 2.0 \times 19$ mm以上
- ② コンクリート釘 寸法 : $\phi 2.0 \times 19$ mm以上

鉄骨下地の場合はボルト (M8×25)、タッピンねじ ($\phi 3.0 \times 20$)、溶接 (@900) 等でランナー受金物を介して取付けるものとする。

5-2-2 タッピンねじ

寸法 : $\phi 3.5 \times 32$ mm以上
留付間隔 : 202 mm以下

補強用鋼板固定用留め具(上張りボードと共に固定する)
材質 : 鋼製またはステンレス製
寸法 : $\phi 3.5 \times 32$ mm
留付間隔 : 周辺部 100 mm、中間部 200 mm以下

5-2-3 ステープル

寸法 : 幅 4 mm以上 長さ 32 mm以上
留付間隔 : 周辺部 100 mm、中間部 200 mm以下

5-2-4 接着剤

酢ビ系接着剤 塗布量 : 100~200 g/m²

5-2-5 補強用鋼板 (※. 1枚あたりの鋼板幅が 600 mm以下且つ、壁面積の 25%以下)

材質 : 鋼製下地材と同じ材質
厚さ : 1.0 mm以下
留付位置 : 下張り材と上張り材の間
鋼板幅とは短辺方向の長さを指す。

5-2-6 充填材 (※認定書別添詳細に記述のある内、下記の製品を推奨)

FRフェルト……ガラス繊維混入ロックウールフェルト
厚×幅×長 : 10×20×1000 mm
スキマナイト……無機質充填材
CAボンド……せっこう系直張り用ボンド
ロックウール……JIS A 9504、JIS A 6301
Gコーク……せっこう系充填材
シーリング材……ウレタン系・アクリル系・シリコン系・変成シリコン系
チヨダ耐火シール

注) 使用部材については、「6. 標準施工要領」及び「8. 施工順位」を参照して下さい。
チヨダ耐火シールの施工方法は別途「チヨダ耐火シールの標準施工方法」参照

5-2-7 目地処理材 (※目地部木口面処理を行わない場合)

ジョイントコンパウンド、ジョイントテープ (ガラス繊維製、紙製) 等

目地処理材を使用する場合の組合せは、以下のいずれかとする。

- ① ジョイントコンパウンド
- ② ジョイントコンパウンド及びジョイントテープ (ガラス繊維製、紙製) 等

6. 標準施工要領

① 墨出し

間仕切壁を設置する所定の上下スラブ面に正確に、墨出しを行う。

② 上下ランナーの取り付け

上下ランナーの取り付けは、コンクリート下地にはランナー固定ピンで、900 mm以内の間隔で固定する。
鉄骨下地の場合はランナー受け金物を介してタッピングねじ若しくは溶接等で、それぞれ 900 mm以内の間隔で留付ける。

③ スタッドの建込み

スタッドを 606 mm以下の間隔で建込む。(上部クリアランスを 10 mm程度設ける。)
□型スタッドを使用する場合はスタッドスペーサーを約 600 mmの間隔で取り付け、必要に応じて振れ止めを約 1200 mmの間隔で挿入する。

④ FR フェルトの貼り付け (上下部、壁取合部)

(四周処理 1)
スラブ下・梁下・床部及び壁取合部のランナー、スタッド脇に FR フェルト (10×20×1000 mm) を張る。
※床部下張りボードに FR フェルトの代わりにスキマナイト又はシーリング材を使用する場合は、床ランナー脇にスキマナイト又はシーリング材を塗布する。

⑤ 下張りボードの取り付け

下張りボードは、横張りを標準とし、タッピングねじにて 202 mm以下の間隔でスタッドに留付ける。
床部への取り付けは FR フェルトの上に落とし込み、隙間が生じないようにする。
上部及び壁取合部のボードは、躯体との隙間が 5~8 mm程度となるようにカットし、FR フェルトに押し付けるように取り付け、隙間の無いようにする。

⑥ スキマナイト又はシーリング材の線状塗布 (床部)

(四周処理 2)
床面の下張りボードの脇に、スキマナイト又はシーリング材を塗布する。

【上張りボード目地木口面を酢ビで処理する場合】

⑦ 上張りボードの取り付け

上張りボードは、縦張りとし、下張りボードと目地部分が重ならないよう、酢ビ系接着剤（100～200 g/m²）とステープル（間隔 周辺部 100 mm、中間部 200 mm以下）を併用して留付ける。

床部はスキマナイト等の上に落とし込み取り付け。上部及び壁取合部は、躯体との隙間が5 mm以下になるようにボードをカットし、取り付ける。

目地処理及び表面仕上げを行う場合は、接着剤が完全に硬化するまでの養生期間を十分とってから行って下さい。

補強用鋼板を挿入する場合は、テープ等で下張りボードに仮固定し、鋼板部分を上張りボードの上からφ3.5×32 mmのタッピンねじ（間隔 周辺部 100 mm、中間部 200 mm以下）で留付ける。その際、スタッドまで到達させる必要はない。また、鋼板の厚さにより、ステープルが打ち込める場合はステープルでも可。（※次項「7 補強用鋼板の施工」参考）

⑧ 上張りボード目地部 酢ビ処理

次のボードを張る前に上張りボードの目地部木口面を酢ビ系接着剤で処理する。

塗付量： たて目地 25g/m よこ目地 10g/m



⑨ スキマナイト又はシーリング材の充填

（上部、壁取合部）

（四周処理 3）

上張りボードの上部及び壁取合部の隙間にスキマナイト又はシーリング材を充填する。

⑩ 表面仕上げ

表面仕上げの種類により目地部をジョイントコンパウンド等で処理し表面仕上げ材を施工する。

【上張りボード目地部を目地処理する場合】

⑦ 上張りボードの取り付け

上張りボードは、縦張りとし、下張りボードと目地部分が重ならないよう、酢ビ系接着剤（100～200 g/m²）とステープル（間隔 周辺部 100 mm、中間部 200 mm以下）を併用して留付ける。

床部はスキマナイト等の上に落とし込み取り付け。上部及び壁取合部は、躯体との隙間が5 mm以下になるようにボードをカットし、取り付ける。

目地処理及び表面仕上げを行う場合は、接着剤が完全に硬化するまでの養生期間を十分とってから行って下さい。

⑧ スキマナイト又はシーリング材の充填

（上部、壁取合部）

（四周処理 3）

上張りボードの上部及び壁取合部の隙間にスキマナイト又はシーリング材を充填する。

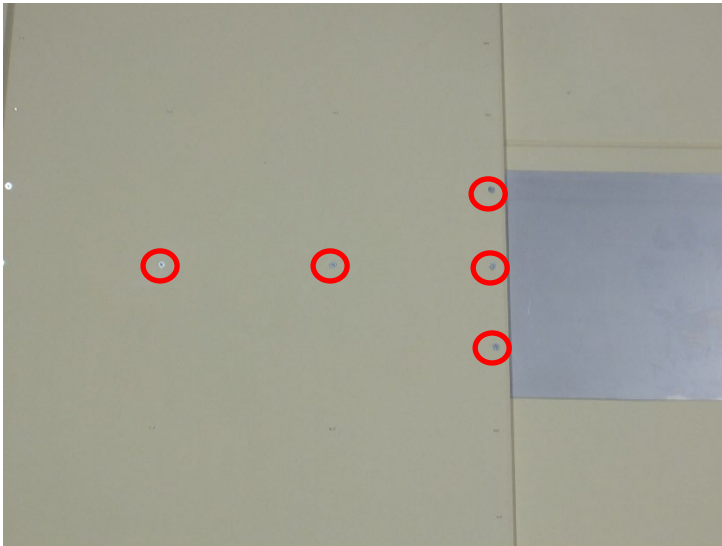
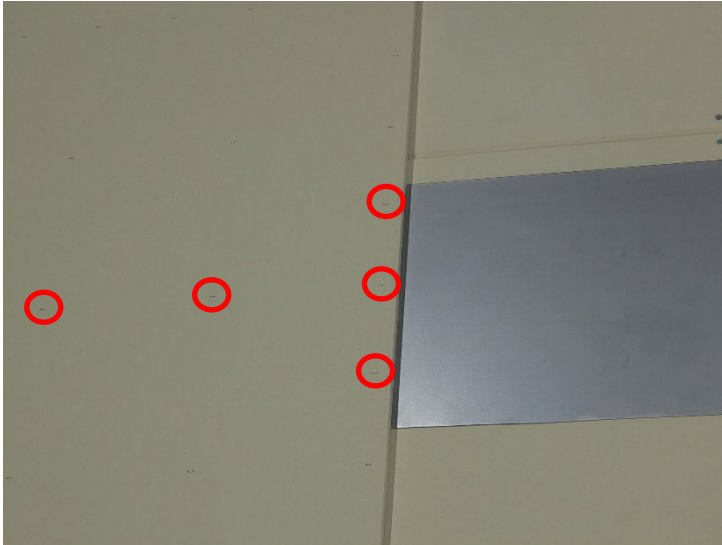
⑨ 目地処理

上張りボードの目地をジョイントコンパウンドとジョイントテープ（ガラス繊維）を併用して処理する。

⑩ 表面仕上げ

表面仕上げ材を施工する。

7. 補強用鋼板の施工

<p>タッピンねじによる固定</p> 	<p>■補強用鋼板 1枚あたりの鋼板幅*が600 mm以下且つ、 壁面積の25%以下</p> <p>材 質 : 鋼製下地材と同じ材質 厚 さ : 1.0 mm以下 取付位置 : 下張り材と上張り材の間</p> <p>※鋼板幅 : 短辺方向の長さ</p> <p>■施工方法 下張りボードに両面テープ、タッピンねじ等を用いて鋼板を仮固定し、上張りボードの施工と共に本締めを行う。 上張りボードの固定について挿入した補強用鋼板により、ステープルが施工できない箇所はタッピンねじにて固定する。</p>
<p>ステープルによる固定（鋼板厚さ0.6 mm以下）</p> 	<p>留付材 : タッピンねじ (φ3.5×32 mm) 留付間隔 : 周辺部 100 mm、中間部 200 mm以下</p> <p>その際、スタッドに固定する必要はありません。</p>

8. 施工順位

標準施工要領 6-1 6-2 6-3	標準施工要領 6-4 ※
<p>躯体スラブ ランナー ランナー固定ピン クリアランス10mm程度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 墨出し 2 墨出しに沿って上下ランナーを固定ピン等で φ900に取付ける 3 スタッドを建込む スタッドの長さは壁高さより10mm程度短くして 上端部にクリアランスを設ける <p>ランナー固定ピン ランナー</p>	<p>FRフェルト</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 上部・壁面にFRフェルトを貼り付ける <p>FRフェルト</p>
標準施工要領 6-5	標準施工要領 6-6
<p>押し付けるように張る</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 下張りボードを張る <p>押し付けるように張る</p>	<ol style="list-style-type: none"> 6 下部にスキマナイト又はシーリング材を塗布する <p>スキマナイト 又はシーリング材</p>

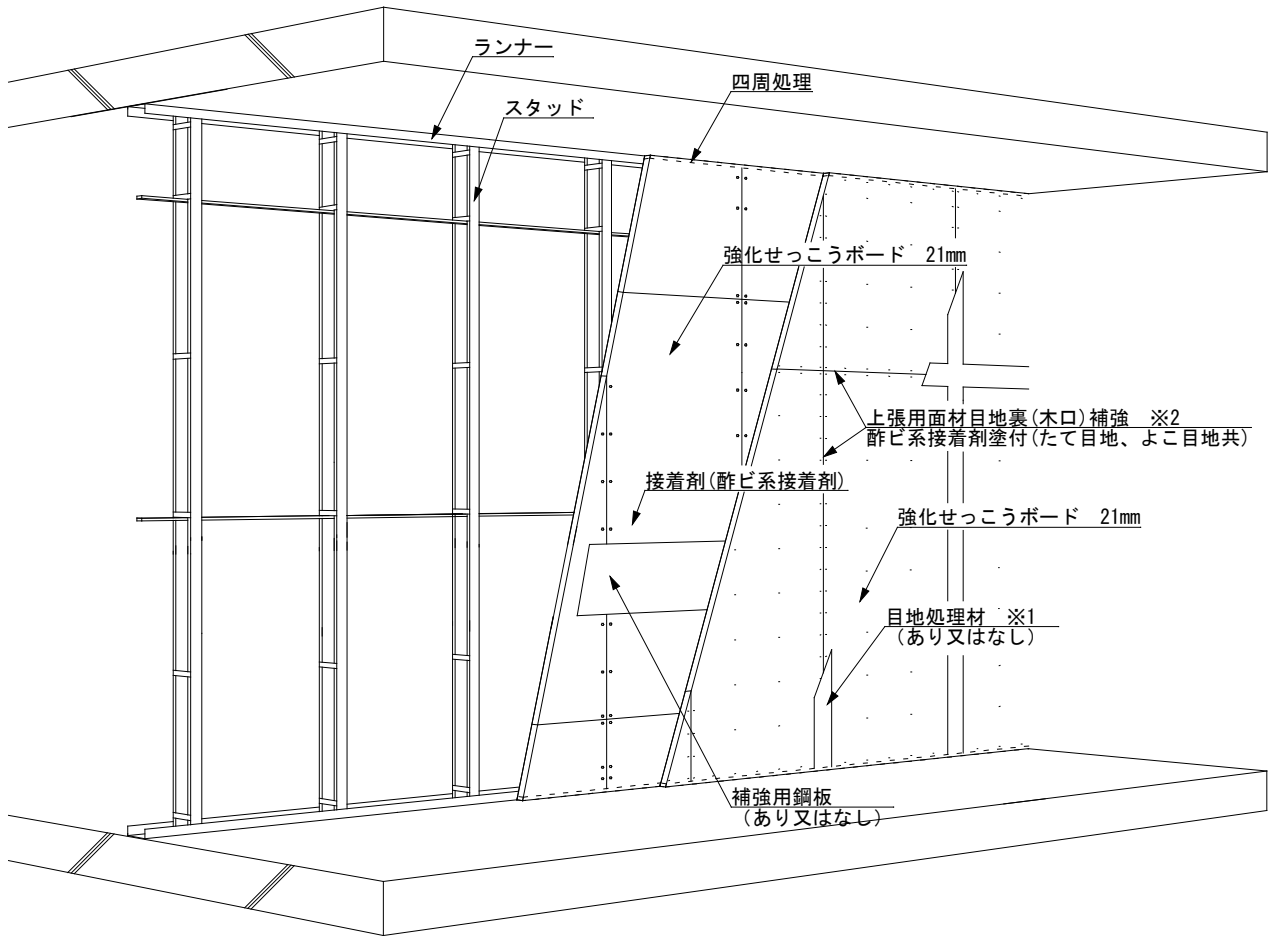
※床部の四周処理について

下部で不陸が少ない場合、下張り材にFRフェルトの代わりにスキマナイト又はシーリング材も可

標準施工要領 6-7	標準施工要領 6-8
<div data-bbox="443 436 715 683" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="244 685 683 779"> 7 上張りボードを張る 床部は押し付けるように張る ※酢ビ系接着剤 塗布量：100～200 g/m² </p> <div data-bbox="327 873 715 1120" data-label="Image"> <p data-bbox="327 891 518 918">押し付けるように張る</p> </div>	<div data-bbox="1029 436 1364 683" data-label="Image"> <p data-bbox="1029 515 1165 560">上張り目地部 木口面酢ビ処理</p> </div> <p data-bbox="869 685 1300 824"> 8 上張りボードの縦、水平目地部に 酢ビ系接着剤を塗付する。 塗付量： たて25g/m よこ10 g/m ※ 上張り目地を目地処理する場合は不要 </p> <div data-bbox="1093 907 1364 1120" data-label="Image"> </div>
上張りボード 目地小口処理方法 詳細	標準施工要領 6-9
<div data-bbox="175 1243 790 1982" data-label="Image"> <p data-bbox="271 1496 399 1523">下張りボード</p> <p data-bbox="566 1608 694 1635">上張りボード</p> <p data-bbox="391 1400 550 1444">よこ目地 酢ビ塗付 10 g/m</p> <p data-bbox="279 1713 438 1758">たて目地 酢ビ塗付 25 g/m</p> </div>	<div data-bbox="997 1265 1332 1512" data-label="Image"> <p data-bbox="997 1299 1141 1344">スキマナイト 又はシーリング材</p> </div> <p data-bbox="853 1518 1396 1668"> 9 上部取合い・壁面隙間に、 スキマナイト又はシーリング材を充填する ※ 上張りボードの目地木口を酢ビ処理しない場合は 上張りボード目地を目地処理する。 </p> <div data-bbox="1061 1736 1332 1960" data-label="Image"> </div>

9. 標準詳細

透視図（一般例）



※1 上張り目地を目地処理する場合は、上張り面材目地裏（木口）補強は不要。

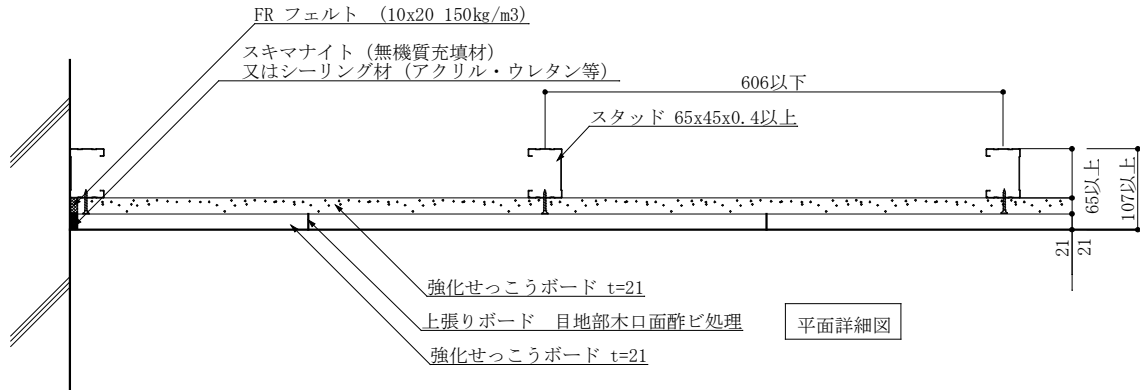
※2 目地処理なしで施工する場合は、たて目地、よこ目地共に上張り面材目地裏（木口）補強必須。

上張りボード小口面の酢ビ処理 たて目地：25g/m よこ目地：10g/m

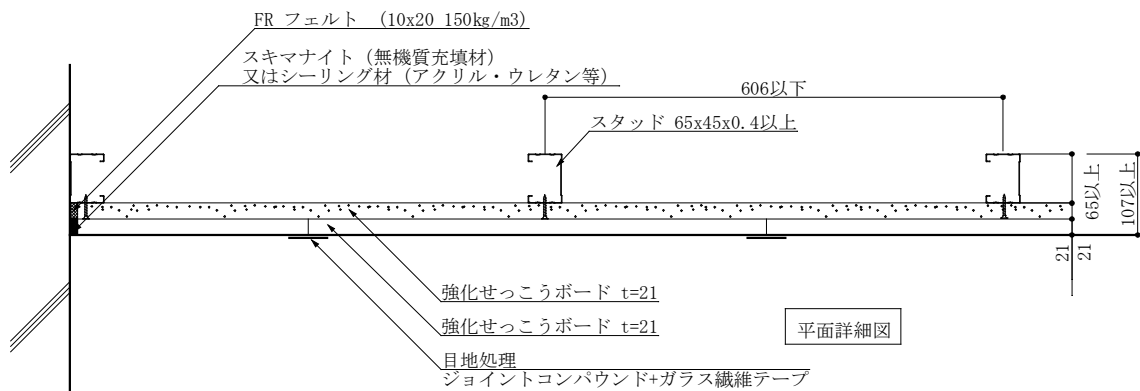


平面詳細図（一般例） 上張りボード木口面の酢ビ処理または、目地処理のいずれかを行う。（以下同じ）

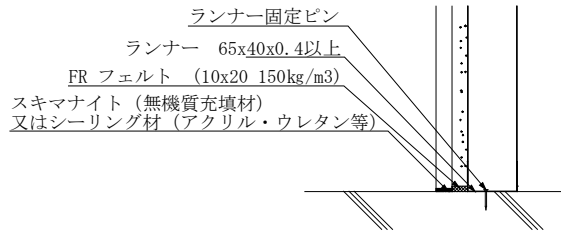
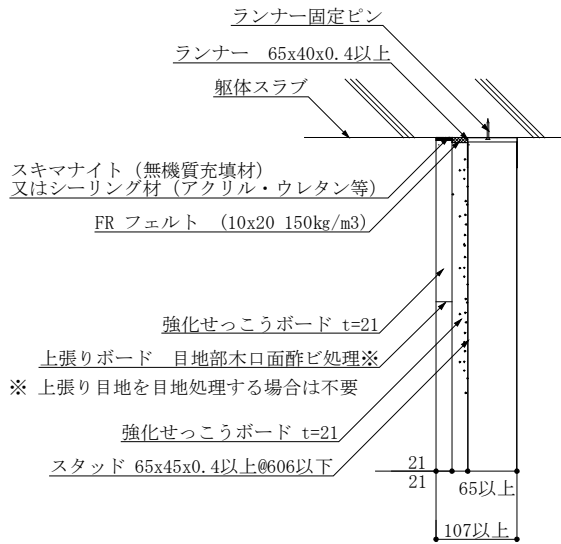
①目地処理なし



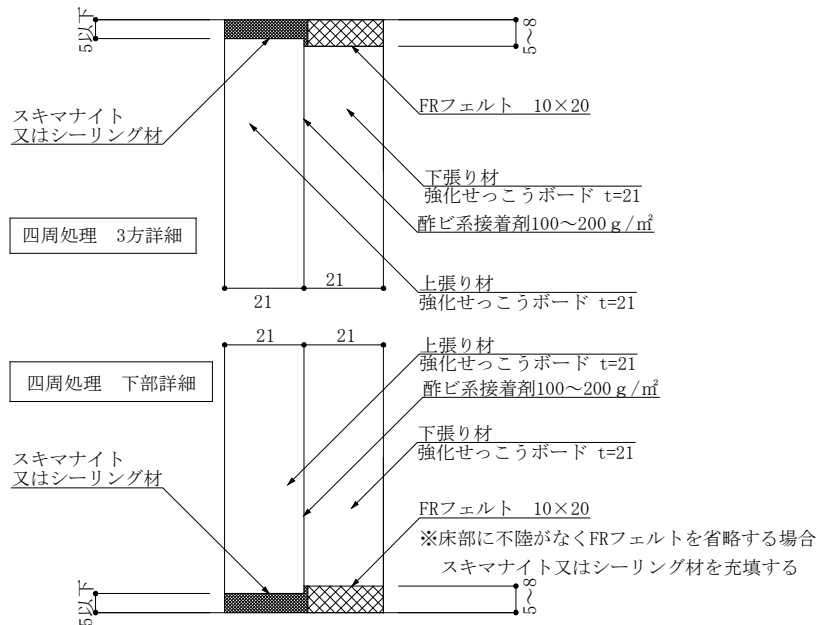
②目地処理あり



断面詳細図（一般例） 四周処理詳細

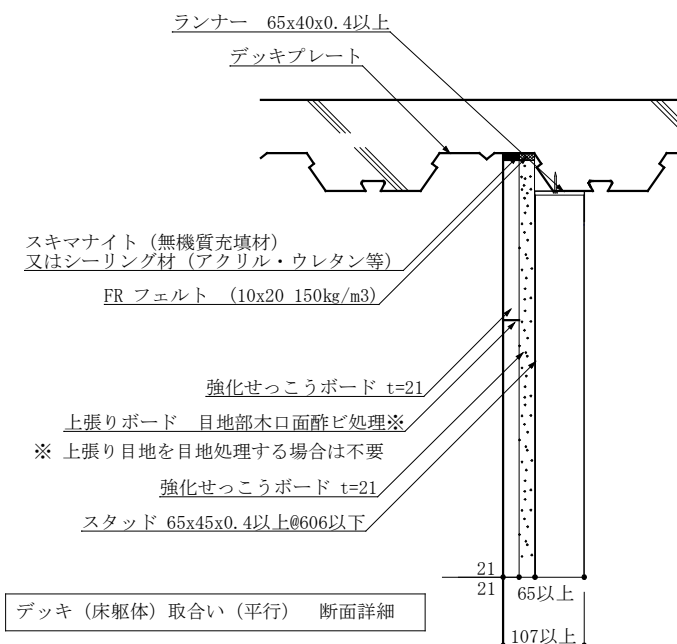
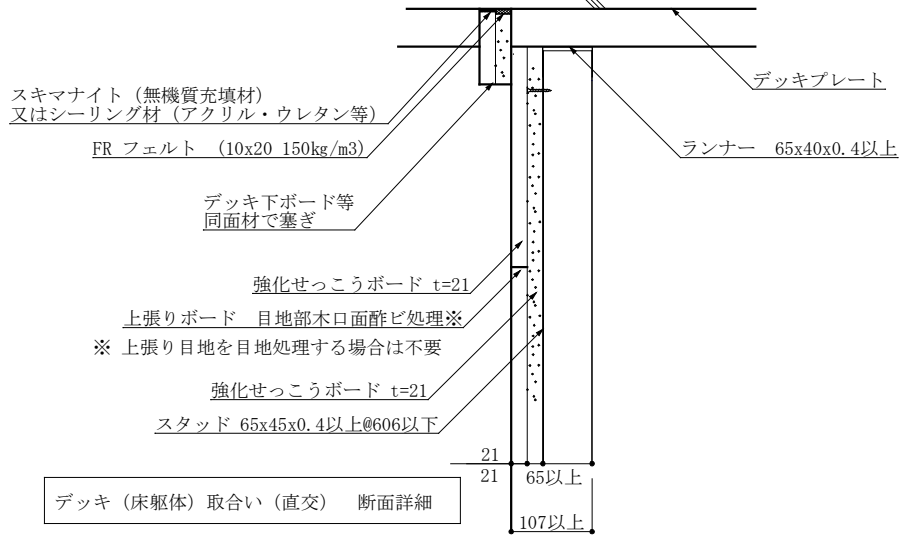
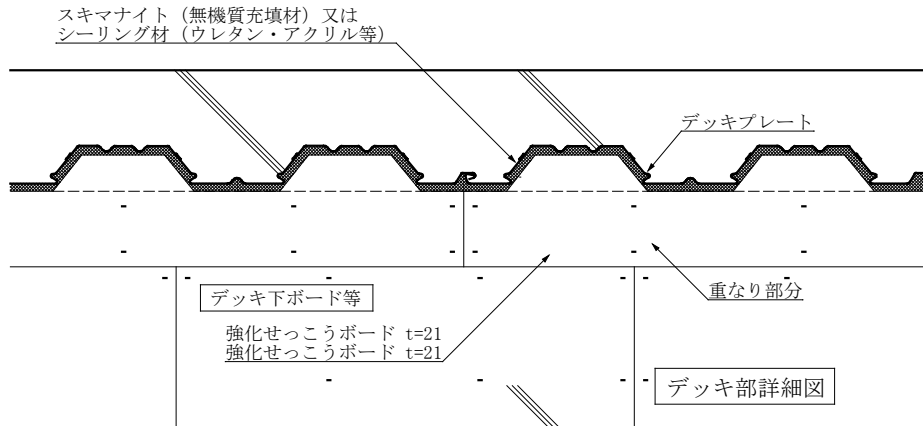


四周処理詳細

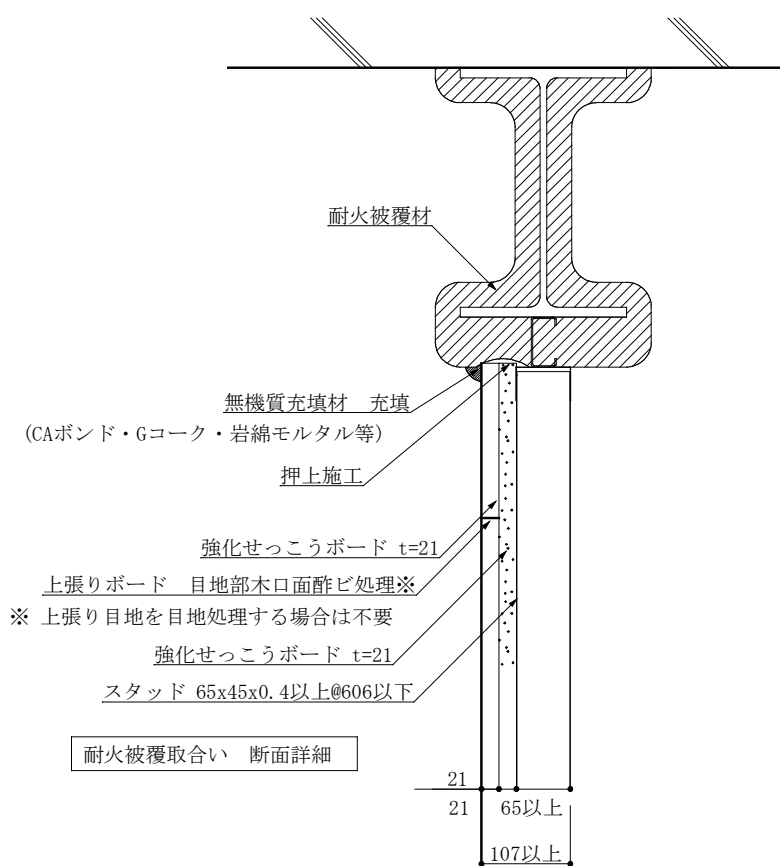


※下部で不陸が少ない場合、下張り材にFRフェルトの代わりにスキマナイト又はシーリング材も可

デッキプレート取合い詳細図 (一般例)



耐火被覆取合い詳細図 (一般例)



10. 自主検査記録書

年 月 日

耐火遮音間仕切壁（戸境壁）工事施工 自主検査記録書（兼報告書）

工 法 名 : STウォール0

物 件 名 :

所 在 地 :

検 査 期 間 : 自 年 月 日 ~ 至 年 月 日

検 査 箇 所 : (部屋 No. 壁体 No. 等)

使用ボード : 下張り 強化せっこうボード t=21 上張り 強化せっこうボード t=21

建設会社名 :

所 長 名 :

監 督 者 名 :

検査代表者名 :

No.	検 査 項 目	A 面 (表)				B 面 (裏)			
		検査日	良	否	是正日	検査日	良	否	是正日
	●鋼製下地などの施工								
1	墨出し（位置、基準墨の確認）								
2	ランナーの留め方（端部より約50mm、中間部約900mm以内）								
3	スタッドの長さ（-10mm程度）								
4	スタッドの建込み（606mm以下）								
5	スタッド、スペーサーの取り付け具合（ぐらつき、ねじれ、垂直性）								
	●壁の四周と躯体との接合部の耐火遮音処理施工 (重点施工箇所)								
6	下張りボードの張り方（ビス留めピッチ202mm以下、打込み方）								
7	下張りボードの張り具合（目違い、隙間）								
8	ボード下張り時の充填材 ①FRフェルト（上下部、壁取合部） 〈床部の不陸が小さい場合FRフェルトの代わりにスキマナイト又はシーリング材も可〉 ②シーリング材又はスキマナイト（床部）								
9	上張りボード 目地木口面の処理（酢ビ系接着剤 たて25g/m、よこ10g/m） ※目地処理をしない場合								
10	上張りボードの張り方 （酢ビ接着剤100～200g/m ² 、ステーブル留め間隔：周辺部@100mm 中間部@200mm以下）								
11	ボード上張り時の充填材（スキマナイト等）								
12	上張りボード目地処理 ※木口面酢ビ処理をしない場合								
	●壁全体の仕上がり状況								
13	仕上面の目違い、凸凹								
14	仕上面の汚れ、破損								